

山首上人さまご講演

# 菩薩行のすすめ

ほんとう  
本当の幸福



「ナadeshiko」

「一人勝ち」はよくありません

いかに物持ちになっても、金持ちになっても、死んで持っていけるものは一つもありません。また、物をたくさん持ったからといって、決して幸福ではありません。

本当の幸福は、他人の苦しみ、悩みを除いて、楽しみを与えることであります。

苦しみ、悩みを脱れ、真の楽しみを得た人々の喜びを見ることは、何物にも代えられない喜びであります。

|| 御開山上人御遺稿・話の泉 ||

なかなか厳しいことをおっしゃいますが、たしかにその通りだと思います。

世の中には、財産をたくさん持っている人もいますし、持っていない人もいます。

いろいろですが、この世の中で価値があると思われるお金など物質的な財産は、あちらの世界に行った時、全く役に立ちません。

土地の権利書や札束をいっぱい持って行って閻魔様にやさしくしてもらおうと思っても、そこに行き着く前に焼けて灰になって

しまうでしようし、持っ行って行けたとしても  
閻魔様には用のない物ですから、こんな紙  
くず邪魔だ」と投げ返されるのが落ちです。  
それらの物が通用するのは生きている今だ  
けで、閻魔様の世界では何一つとして通用  
いたしません。

「あちらの世界で役に立つのはただ一つ、  
今世に積んだ「功德」だけです。これは、  
子どもや孫に置いて行くと行って、また、  
いつ、どこに行こうとも必ず本人について  
行くものですから、多ければ多いほどいい  
のですが、困ったことに罪障というものも、  
功德と一緒についてゆくようです。しかも

あるお経によりますと、功德にも罪障にも  
利息がついて増えてゆくそうです。何パー  
セントつくのかは知りませんが、利息がつ  
いてさらに徳が増すのはいいけれど、罪障  
にもつくとなるとちよつと困ります。

私もまだ行ったことがないからどうい  
ことになるかは知りませんが、功德より罪  
障の方が多かつたら困ったことになるので  
はないかと心配です。

人を困らせ、泣かせて作った罪障は閻魔  
様はよくご存知です。全くゼロにはできな  
いとしても、少ないにこしたことはないで  
しょう。

—— 菩薩行のすすめ ——

「幸福」を考えた時、地位・名誉・財産などは、条件の一つになるとは思います。着る物も食べる物も住む家も、ないよりあるにこしたことはありません。しかし、それがあるからといって幸せかどうかは別問題です。また、ないからといって不幸かという、そういう問題でもありません。

では、本当の幸福に結びつくものは何かということですが、それについて御前様は他人の悩み、苦しみを除いて楽しみを与えること〃とおっしゃってみえます。

杉山先生以来教えられてきた、菩薩行の

実行です。人を喜ばせることによって、自分の楽しみを得ようとすることです。

自分の喜びが、人を苦しめた結果として得られるものではないけません。本当の喜びは、人に楽しみを与えることによってこそ得られるのであります。

子どもが喜び、主人が喜び、奥さんが喜んでくれることは、本当にうれしいことです。その喜びがたくさん集まれば、プラスの功德が増えてゆきます。そうすれば自然に、マイナスの罪障は減ってゆきます。いろいろな形で徳を積み、本当の幸福を手に入れたいものであります。

娑婆即寂光土

家庭も含めて、今自分の住むこの世界が極楽ということですよ。さらに言うなら、今いる場所を極楽にしなければ、どこにも極楽はない、ということです。

チルチル・ミチルの「幸福の青い鳥」のお話は皆さんご存知でしょう。貧しい木こりの子、チルチルとミチルの兄妹が、クリスマスイブの夜、仙女の訪問を受け、その言い付けで「青い鳥」を探す旅に出かけます。しかし、どこを探しても見つかりません。歩き疲れて家に帰って来た時、これはすべて夢だったと知ります。そして、探し

求めた幸福の青い鳥は、自分の家で飼っていたキジバトだった、ということに気付くというお話です。

これは西洋のお話ですが、東洋にも同じようなお話があります。

『尽日 春を尋ねて春を見ず』

芒鞋踏遍し 隴頭の雲

帰り来たって適々 梅花の下を過ぐれば

春は枝頭にあつて 已に十分』

中国・宋の時代の戴益という人の詩です。

一日中、春（幸福）を尋ねて回った。ぞうりの破れるほどあちらこちらを尋ね歩いて、隴山の雲の所にまで行ったけれど、一

向に春には出会えなかつた。あきらめて家に帰り、軒下を見ると梅が一輪咲いていた。わざわざ遠い山の方まで行かなくても、春はわが家に来ていた。もう何も言うことはない。

幸せは、どこか遠い所にあるのではなく、自分の一番身近な所にある、と教えられるのです。

世の中思うようにならないことがいっぱいあります。その思うようにならないことの中に、つまり、今生活をしているその中に、ありがたい春を見つけることが大切です。

私共欲が深いものですから何かいいことがあつても、もう少し何とかならないか、という気持ちが強くなります。そこに、思うようにならない、という不平・不満が、さらに追いうちをかけてきます。それではなかなか、本当の幸福は得られません。

極楽も幸福も、自分が今いる所にしかありません。生きている今のこの時を、極楽に目をそむけて、よその世界に探しに行こうとしたり、明日や明後日や来年の幸せを求めても、何にもなりません。

私も後期高齢者になりまして、いろいろ

不自由なことが多くなりました。物忘れは激しくなり、足腰も弱くなってきました。今日もこうして話していて、実は先程下で準備をしていた時に、あの話とこの話を、と考えていたのですが、一つ省いてしまっただと言いますか、ど忘れしてしまい、しまった、と思っていることがあります。話を元に戻せばいいようですが、それではうまくつながりません。ですからそのお話は、いずれまた別の機会にさせて頂こうと思っておりますが、本当に困ったものです。そういう不都合はいろいろあっても、今ここです。どうしてお話してきていることは、あり

がたい、ことだと思っております。

人生たしかに厳しいことがあります。しかし、思うようにならないことや、できなかったことをなげいているだけではよくありません。いやなことはあつたけど、このことはありがたかつた、と、良かったことを喜んでゆくことです。

いろいろある中で一番、ありがたい、と思ふのは、今、生きていることです。命というものは、いくらお金をだしても買うことはできません。一度なくしたら、もう取り返しはつきません。本当にありがたいこととであります。

この世界が極楽といつても、何でも思う

ようになるといふ世界ではありません。思

うようにならないことはあるけれど、それ

でもありがたいと思つてゆくことが「娑

婆即寂光土」であります。

何でも思うようになったら、ろくなこと

はないと思います。我の強い人間は因に乗

つて何をしてかすかわかりません。年相応

に、少々不自由なことがあつてもいいだろ

うと思つています。不自由なことはある

けれど、今いる所が極楽で、生きていられ

る今の瞬間がありがたいと思つてゆくと、

穏やかに人生を送ることができると思いま

す。

同じような意味の言葉で「即身成仏」が

あります。この身を離れずに仏に成る

つまり、この身このままが、ありがたい

ということですよ。それを現実のものにする

にはやはり、自分の幸せを考える前にまわ

りの誰かを、自分のできることで、立場を

通して、仕事を通して喜ばせること、喜ん

で頂くことです。

自分の幸せを考えた場合、自分だけが幸

せでいいかというところ、それは間違いです。

家族の誰かが病気で寝ていたり、失業でも

していたら、自分は出世をして給料をたく

さんもらえるようになったからといって、  
幸せとは思えません。家族みんなが元気に  
日々を過ごさせてこそ、喜びを感じることが  
できるのです。

自分だけの幸せ、俗に言う「一人勝ち」  
はよくありません。自分一人だけニコニコ  
していて、他の人は皆、苦虫をかみつぶし  
ているのでは、幸福がそこにあるとは思え

ません。法華経の世界では、自分だけの幸  
せはあり得ないのです。

思いやりの心で常にまわりの人に接し、  
喜ばせてあげられること、そして、今この  
身このままが、ありがたいと喜べること  
が「成仏」、つまり、本当の幸福というこ  
とであります。